

News Letter

第8回失業と健康研究会レポート

「Work Sharing をめぐって」西田和子・久留米大学教授

ワークシェアリングは 多様な生き方への意識変換である!! —社会システムの変革構築が必要

失業者減少策の一環としてみたワークシェアリングについて、内外の動向、健康への影響、展望を述べた。ワークシェアリングは雇用システムの新しいモデルである。これによって失業率を減少させようとする一方策である。最初に採用したオランダでは12%の失業率が1%へ激減したという。ワークシェアリングとは就労者と失業者とが仕事を分かち合うという互助システムで、総雇用量の再配分といえる。一人当たりの労働時間と賃金を減らし、他の人へ分けるのである。労働時間の短縮は雇用増になる。増えた自分の時間をどのように使うか、という新たな課題が生じる。それは人生観を変えなければならない機会になる。

オランダにおけるワークシェアリングでは、労働への意欲を損なわないように社会保障の効率化が行われた。社会保障費の給付率を10%減、給付期間の短縮、早期退職を勧奨し、失業保険受給者への職業訓練受講の義務化をした。時間当たりの労働賃金や諸社会保障を正社員とパートタイマーと同一にした。またパートタイマーからフルタイマーへの転換、またその逆も自由に行えるシステムにした。しかし順調に推移しているわけではなく、時勢の推移に合わせて次々に改革が行われている。

他国の状況をみるとドイツモデルは産業レベルの合意が基盤にあり、フランスモデルでは政府主導で労働時間を35時間/週にした。日本での導入は緊急避難的で、人件費削減を主目的とする現状である。パートタイマーは正社員の55%という低賃金で、不安定労働で、社会保険、福利厚生も乏しい。将来に向けての現状打開策は、人々のダイナミックな意識改革と政府の良識ある政策の実行が必要である。

ワークシェアリングがもたらすことは、1) 残業削減による雇用効果 2) 時短5%による雇用と消費効果 がある。将来に向けてライフスタイル、働き方の再構築、それは人生観の確立に連動する。スローライフ、スローフード、頑張らない、など、新しい社会への変換点になる時代の到来といえる。多様な生き方があることを認識し、認め合う動きであると言えよう。

「若年者の職業教育カリキュラムを考える」石井敦子、五嶋佳子・久留米大学大学院生

“人生における仕事の意義教育”が必須

若年者の就労状況をみると、フリーターの増加が顕著である。枠の中に囚われることを嫌う、青い鳥を求め歩く心理、親の経済的支援を求める甘えの心理、自分に合わない仕事なしない、いろいろと経験した、などが理由になっている。このような風潮は決して許されることではない。演者は福岡県の「ヤングワーク福岡」のカリキュラムを紹介しながら考察を加えた。

研修会の対象は小中高生、大学生、フリーターの若者である。内容は職業意識の啓発、職業情報の提供、適職発見への支援、職業研修事業、技能技術の保存伝承、などである。手段として座学、ビデオ、適性検査、パソコン検索が行われる。ビデオが好評と云うが、卒なくまとめたものは意外に心に残らないものである。

教育では、職業意識、人生における仕事の意義への啓蒙が重要である。これらについて小グループでのディスカッションを行うことが大切で、対話の重要性がここにある。一方法として行われた事例紹介があった。高田和美先生の実践で「ぼくのお父さんの職場ツアー」である。働く親が自分の職場を案内するという配慮で、「子は親の背を見て育つ」ことの職場実践版である。

現代人に欠けている社会での良好な人間関係をつくる術を身につけるために、ソーシャルスキル教育を実践していくことも、同時に大切である。

第3回 International Expert Conference on Unemployment and Health

今秋9月23-25日、ブレーメン（ドイツ）にて開催予定

今回の主題は①失業者の健康状況 ②労働市場の不確実性と被雇用者の健康状況 ③小規模化にみる社会責任 が予定されている。参加希望の方は、事務局へ e-mail を下さい。その後の情報を送付します。

お知らせ

◆次回の第9回研究会は、**’04年5月29日（土曜日）14:00-17:00**です。

* 予定プログラムは

・「就労の現況 —症例を中心に」内藤正子（NTT 保健師）
ほか。

* 会場は久留米大学医学部・基礎2号館1Fセミナー室です。

ぜひ、ご参加ください。

◆次々回の開催予定日： 第10回研究会 / **10月16日**

◆本誌 “News Letter” を入用の方は、お知らせ下さい。

世話人：的場恒孝（代表）・高田和美・酒井 淳・石竹達也・山岡春夫・児玉英嗣

[事務局] (〒830-0011) 福岡県久留米市67 久留米大学医学部環境医学教室内

“失業と健康” 研究会

Fax: 0942(31)4370 Tel: 0942(31)7552 E-mail: kankyo@med.kurume-u.ac.jp